

令和6年度 新座市立第二中学校 1学年国語科

◆国語科の目標

【知識及び技能】  
【思考力・判断力・表現力等】



「話す・聞く」「書く」「読む」「言語・文化」に関して、目的や意図に応じ、理解した内容を効果的に活用し、根拠を明確にしながらかいたり、話したりし、もの見方や考え方を深める。

【学びに向かう力、人間性等】 → 知識・技能の獲得や、思考・判断・表現の充実に向け、粘り強く取り組む態度と、その取り組みの過程において自ら試行錯誤しながら学習を進めようとする態度を充実させる。

	単 元	学 習 内 容
一学期	1 学びをひらく	「野原はうたう」：音声の働きや仕組みについて学ぶ。 「書き留める」：情報の整理の仕方、ノートを書き方を学ぶ。 辞典類の特徴を学ぶ。 「シンセン」：描写を基に人物の心情変化を捉える。 「情報を的確に聞き取る」：記録や質問をしながら情報を整理する。
	2 新しい視点で	「ダイコンは大きな根？」：事実と意見を捉え、論旨を把握する。 「ちょっと立ち止まって」：原因と結果、意見と根拠など、情報と情報の関係を整理して論旨を把握する。 「話の構成を工夫しよう」：中心的な部分と付加的な部分を明確にして伝えたいことの構成を考える。 「書写」：行書（漢字と仮名を調和させて書く）
	3 言葉に立ち止まる	「詩の世界」：詩を読み味わう。 「比喻で広がる言葉の世界」：筆者の考えを読み取り、理解したことや考えたことを文章にまとめる。
二学期	4 心の動き	「大人になれなかった弟たちに……」：描写を基に登場人物の関係や心情の変化を捉える。 「星の花が降るころに」：場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容を解釈する。
	5 筋道を立てて	「『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ」：文章構成や展開について、根拠を明確にして整理して捉える。 「話し合いの展開を捉える」：話題や展開を捉えながら、互いの発言を結び付けて考えをまとめる。
	6 いにしへの心にふれる	「いろは歌」：古典特有のリズムを味わい、古典の世界に親しむ。 「蓬萊の玉の枝」：古文を読み、場面展開や人物の相互関係、心情変化について、描写を基に捉える。 「今に生きる言葉」：漢文を読み、考えたことを文章や絵でまとめる。
三学期	7 価値を見いだす	「『不便』の価値を見つめ直す」：必要な情報に着目して要約する。 「毛筆」：行書（書き初め）
	8 自分を見つめる	「少年の日の思い出」：小説を読み、文章構成や場面展開、表現の効果について、根拠を明確にして考える。 「随筆二編」…随筆を読み、考えたことを記録して比較し合う。 「構成や描写を工夫して書こう」：段落の役割を意識して、自分の考えを文章にまとめる。 「さくらのはなびら」：詩を読み味わう。

※ 各学期、上記の単元の他に適宜、「文法」や「言葉の知識に関する事項」、「言葉の表現に関する事項」についての学習を行う。

※ 国語便覧や辞書は通年で利用する。

※ ワーク等の利用に関しては、担当の教師によって説明を行う。

※ 場合によっては、言語に関する通年の取り組みを行う。

○副教材：担当の教師により、年度当初に説明がある。

主に、家庭での学習を補助する問題集や漢字、文法の知識を付けるためのワーク、総合的な学習成果を測るためのテスト問題などを利用する。

また、3年間を通して使う資料集、文法テキストなどがある。

学習補助教材として、オンライン上のアプリやキュービナ等も利用する。

○評価について

・評価の観点・・・次の3観点について、ABCで評価する。

①知識・技能

②思考・判断・表現

③主体的に学習に取り組む態度

・評価方法

1、授業中の活動（態度・発言・自己評価・相互評価など）による意欲。

2、課題の提出、小テスト、実力テストなどによる学習状況、発表、学習成果の確認。

○評定は、AAA 「5 または 4」  
AAB 「4」  
ABB・AAC 「4 または 3」  
BBB 「3」  
BBC・ACC 「3 または 2」  
BCC 「2」  
CCC 「2 または 1」

※ 上記を原則とするが、評価の基準に照らし合わせ、同じ評価であっても評定が変わる場合がある。特に、すべての観点の評価がAであっても「4」になることがあることに注意する。

※ 欠課が多い場合は、観点別評価がいずれもCまたは評価不能になる場合がある。

○学習方法

・毎日の授業に集中して取り組む。積極的な姿勢が内容の理解を深める。

・学習した内容を活かし、表現につなげる練習を意識的に行う。

・指示された提出物や課題は計画的に進め、期限を守る。わからなければ人に聞く。

・教科書の本文を繰り返し読むこと。特に古典の暗唱などは、繰り返し声を出して読むようにする。

・普段から本や新聞など文章に触れる機会を作る。

・文法は多くの問題にあたって慣れる。

・漢字は大きく、一点一画を丁寧な字で書くよう心掛ける。

○定期テストについて

今年度、これまで同様、各単元の課題や小テストによって観点別の評価を行うが、それ以外に、国語の総合的な知識や理解度、主体的な学習の成果を測るために実力テストも実施していく。それに伴い、実力テストを実施した学期については、各単元の評価を個別に行っていることや、実力テストによって総合的な学習成果を測っていることから、基本的に定期テストを実施しない。

○「国語A」「国語B」について

主に文学的文章及び説明的文章を「国語A」、古文・漢文及び言語事項等を「国語B」とし、二人の教員がそれぞれを全クラス担当する。週に4時間ある国語のうち、週に2時間ずつ授業を行う。各学期の評価・評定は「国語A」「国語B」をあわせたものになる。

※「国語A」...相澤 「国語B」...田中